

平成26年度に向けた病院局の施策の基本方針

平成25年11月定例会（付託）
文教厚生委員会（病院局）

「徳島県病院事業の中期経営戦略」

今後5年間の県立病院を取り巻く主な環境の変化

3病院の改築で、新病院が始動

地域枠医師が医療の現場へ

医療情報ネットワークの活用

県立病院の将来像

中央病院（MZ本部）を核に、
県立病院の力を結集し、県民医療を守る

- ・ドクヘリの機動力を活かした医師等の派遣・患者の搬送
- ・医療情報システム統一による効率的な体制づくり
- ・医療人材の育成・交流による 医療の質の向上

県北部の中核拠点
鳴門病院

総合MZ 西部センター
三好病院

総合MZ 本部
中央病院・徳大病院

総合MZ 南部センター
海部病院

中央病院

本県医療の中核拠点

- ・ 新生児から高齢者まで、フルカバラーの救命救急
- ・ 高い防災対応力を誇る災害医療の要
- ・ 「志」と「臨床力」の高い医師を輩出する実践教育病院
- ・ MZ本部として、高度な医療を提供

三好病院

四国中央部の拠点

- ・ 救命救急、西の砦
- ・ 放射線治療から緩和ケアまで、フルセットのがん医療を提供
- ・ 地域医療支援病院として、公立3病院での連携を進め、地域完結型の医療体制の構築をリード

海部病院

先端災害医療の拠点

- ・ 巨大地震を迎え撃つ前線基地
- ・ 地域医療を担う総合診療医の育成道場

経営戦略の展開

戦略1 医療の質の向上

医療の質を高める基盤づくり

- ◆ 医療人材の育成確保
 - ・次代を担う医療人の育成
「臨床研修病院として指導医を育成、地域医療研究センター(海部)を整備」
→ 指導医の養成
初期、後期研修医の受入
 - ・スペシャリストの養成
→ 高度医療研修派遣(医師) 専門、認定看護医師の養成
 - ・総合マネジメント本部を核とした県立病院間における医師ローテーション勤務による人材活用
- ◆ ICTの活用
 - ・医療情報システムの統一による効率的な体制づくり
→ 県立病院医療情報システムの統一、医療情報のデータベース化、タブレット端末の活用



高度先進医療等の提供

- ◆ 高度先進医療の充実
 - 「高度な医療技術や医療機器により、急性期医療を担い、先進医療の臨床研究、医療技術の向上、チーム医療を推進」
→ 高度医療機器の充実
臨床研究センターの設置(中央病院)
- ◆ 安全・安心な医療の提供
 - ・新病院の機能を最大限に活かした災害医療や新型インフルエンザ等の対応力の強化
 - ・ドクターヘリの機動力を活かした救命救急医療の提供



戦略2 経営財政基盤の強化

投資を支える安定した経営基盤づくり

- ◆ 収入確保の強化
 - ・急性期医療の重点化
救急患者の受入:助かる命を助ける、受入要請を断らない
紹介患者の受入:地域の医療機関との連携強化
→ 一日平均新規入院患者の増
→ 平均在院日数の短縮
 - ・DPC分析による経営の効率化
 - ・診療報酬制度への戦略的な取組
- ◆ 経費削減の強化
 - ・後発医薬品の積極的採用
→ 後発医薬品(ジェネリック)の採用
 - ・医療機器等の共同購入の推進
 - ・委託業務の効率的な執行

今後10年間の収支計画

	H24実績	H30目標	H35目標
経常収支比率	97.4%	98.0%	100.8%
内部留保資金残高	約44億円	約27億円	約30億円